

平成 24 年 度 事 業 報 告 書

事業の概要

平成 24 年度は、次の事業を実施した。

1. フォーラム「メンタルヘルスの集い(第 27 回日本精神保健会議)」の開催

今、世界中で格差の広がりが見られ、わが国も例外ではない。2006 年に OECD が発表したところによると、日本の相対的貧困率はアメリカについて高いとされている。また 2009 年にユニセフは、日本の子どもの貧困率は先進 35 カ国中ワースト 9 位であると指摘した。これらの問題と、わが国に増加する虐待やひきこもり・ニート、さらには自殺者の増加は無関係ではないとする意見も聞かれる。貧困は経済的な問題のみならず、社会的・文化的側面からも見ていく必要がある。そこで今回のフォーラムでは、貧困に伴う格差社会の進行とメンタルヘルスの問題について考察し、その課題と対応を探った。実施にあたっては高塚雄介(本会理事)を委員長に、上別府圭子(本会理事、東京大学教授)、元永拓郎(帝京大学准教授)、山本恒雄(日本子ども家庭総合研究所部長)、野中猛(精神科医)の各氏に準備委員を委嘱した。

なお、本フォーラムは「平成 24 年度健康や命を守る医療の活動事業」として(財)JKA より競輪公益資金の補助を得て実施した。

メンタルヘルスの集い (第 27 回日本精神保健会議)

日 時：平成 25 年 3 月 2 日 10:15~16:00

場 所：有楽町朝日ホール(東京都千代田区有楽町 2-5-1)

テーマ：格差社会とメンタルヘルス

～忍びよる「貧困」にどう向き合うか!～

内 容：特別講演「貧困、民主主義、メンタルヘルス」

湯浅誠(反貧困ネットワーク事務局長)

司会 片岡玲子(立正大学講師)

シンポジウム「格差社会とメンタルヘルス

～忍びよる『貧困』にどう向き合うか!～

シンポジスト

二神能基(NPO 法人ニュースタート事務局理事)

山本恒雄(日本子ども家庭総合研究所部長)

反町吉秀(大妻女子大学教授)

佐野章二(ビッグイシュー日本代表取締役)

コーディネーター

高塚雄介(公益財団法人日本精神衛生会理事)

大塚淳子(社団法人日本精神保健福祉士協会常務理事)

総合司会 相川章子（聖学院大学准教授）

参加者：352名

このフォーラムの内容は本会の広報誌「心と社会」152号（平成25年6月発行）に収録することになっている。

2. 精神保健シンポジウムの開催

全国の主要都市において、その地域の大学・精神保健関連団体と共催で、地域が直面する精神保健に関する課題等をテーマにシンポジウムを開催しているが、本年度は下記のとおり実施した。

①第61回精神保健シンポジウム（和歌山）

日時：平成24年6月30日 13:00～16:15

会場：和歌山県立医科大学講堂

共催：和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室（篠崎和弘教授）

テーマ：認知症を生きる、支える

内容：基調講演 「認知症の正しい理解にむけて

－認知症ケアの心、ぬくもりの絆を創る－」

長谷川和夫（社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長、聖マリアンナ医大特別顧問）

シンポジウム「認知症を生きる、支える」

「認知症の診断・治療」

小倉光博（和歌山県立医科大学附属病院脳神経外科、認知症患者医療センター）

「認知症の本人と家族の思い」

林千恵子（一般社団法人和歌山県認知症支援協会代表理事）

「施設における認知症ケア者の役割」

室みち子（グループホーム太陽のおうち施設長、一般社団法人和歌山県認知症支援協会代表理事）

「認知症疾患医療センターについて」

柴田貴志（和歌山県立医科大学附属病院認知症疾患医療センター）

総合討論

座長：篠崎和弘（和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室）

参加者：127名

記録：このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会」149号（平成24年9月14日発行）に収録した。

②第62回精神保健シンポジウム（相模原）

日時：平成24年9月29日 14:00～16:30

会場：相模原南メディカルセンター大会議室（グリーンホール相模大野）

共 催：北里大学医学部精神科学（宮岡等教授）

テーマ：精神科の薬の適切な使い方

内 容：シンポジウム「精神科の薬の適切な使い方」

「主な薬の効きめと副作用」

山本賢司（北里大学医学部精神科学特任教授）

「子どもがのむ時」

井上勝夫（北里大学医学部精神科学特任講師）

「高齢者がのむ時」

大石 智（北里大学医学部精神科学助教）

「向精神薬はくせになるか/飲み過ぎたらどうなるか」

上條吉人（北里大学医学部中毒・心身総合救急医学特任教授）

「内科で処方されやすい精神科の薬」

宮地伸吾（北里大学医学部精神科学助教）

「不適切な薬物療法をどう見分けるか」

宮岡 等（北里大学医学部精神科学教授）

総合討論

座 長：宮岡等（北里大学医学部精神科学教授）

参加者：97名

記 録：このシンポジウムの内容は本会の広報誌「心と社会 150号」（平成24年12月17日発行）に収録した。

3. 広報誌「心と社会」の発行

今日の精神保健福祉が直面する重要課題を取り上げるとともに、国内や海外の精神保健福祉に関する最新情報を掲載した広報誌「心と社会」を次のとおり発行した。

なお149号と150号は「平成24年度健康や命を守る医療の活動事業」として（財）JKAより競輪公益資金の補助を得て各600部を追加発行し関連団体・施設等に配布した。

- | | | |
|-----------------------------|------|--------|
| ①148号（平成24年6月15日発行） | 166頁 | 2,000部 |
| 特集 メンタルヘルスの集い（第26回日本精神保健会議） | | |
| 「つながり合い、ささえ合い！～子どもたちは、今～」 | | |
| ②149号（平成24年9月14日発行） | 132頁 | 2,600部 |
| 特集 第61回精神保健シンポジウム（和歌山） | | |
| 「認知症を生きる、支える」 | | |
| ③150号（平成24年12月17日発行） | 148頁 | 2,600部 |
| 特集 第62回精神保健シンポジウム（相模原） | | |
| 「精神科の薬の適切な使い方」 | | |
| ④151号（平成25年3月15日発行） | 148頁 | 2,000部 |
| 特集 学校現場のメンタルヘルス | | |

4. 精神保健福祉関係冊子の出版

学校とメンタルヘルスに関連した問題を取り上げる「こころの健康シリーズV 学校とメンタルヘルス」(B5判8頁)を以下のように発行した。なお、発行後はホームページに掲載し誰でも閲覧できるようにした。

①No.9 予備校生のメンタルヘルス

学習院大学学生センター学生相談室 中野良吾 著

平成24年6月発行 3,000部

②No.10 親を頼りにし、一人ではいられない思春期の子どもたち

東京都教育相談センター 今村泰洋 著

平成24年9月発行 3,000部

③No.11 一法律家から見た最近の学校と子ども

弁護士(日野市民法律事務所) 木村真実 著

平成24年12月発行 3,000部

④No.12 学校メンタルヘルスの今後の課題ーシリーズの締めくくりとしてー

東京都杉並第四小学校主幹養護教諭 玉置美恵子

帝京大学文学部准教授 元永拓郎

公益財団法人日本精神衛生会理事 高塚雄介

平成25年3月発行 3,000部

5. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟の一員として国内の精神保健福祉諸団体と協力した。また、広報誌「心と社会」の海外ニュース欄にて世界の精神保健関連情報を紹介した。さらにWFMH日本支部と情報交換を行った。

6. 日本精神保健・予防学会、一般社団法人日本社会精神医学会、公益社団法人日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会、日本神経精神薬理学会、一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会の学術6団体からなる「精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議2014組織員会」と共同で、平成26年11月16日～11月19日に東京で「精神疾患の予防と早期治療に関する国際会議2014」を主催することを決議し、新たに実施する公益事業として内閣府に公益財団法人の再認定を申請し、平成25年3月29日に変更認定書を受領した。